

新しい授業づくりの文化をつくる 「吹田の授業づくり Update プラン」 校内研究活性化プラン

令和8年1月27日実施 Update プラン通信 第23号 小国 授業研究会

小国授業研究会 1月27日(火) 単元名:自分なら、どちらを選ぶか

「吹田の授業づくり Update プラン」校内研究活性化プランでは、教材研究会と授業研究会を1セットとして実施しています。今回は小学校国語科の授業研究会を行いました。授業者より、子どもたちにとって目的意識・相手意識を持った言語活動となるよう「どこに？」という要素を加えた単元構成に変更した授業提案をいただきました。齊藤先生より、国語科で身に付けたい資質・能力、そして、子どもたちの言語活動を大人と同型の文脈にする必然性とその価値についてもご指導いただきました。また、学ぶ対象が汎用的なスキルであり、国語科以外でも身に付けたい能力であるということもご指導いただきました。

—講座の目的—

- ①未知の問題場面に会っても、解決に向けて行動できる汎用的な力(資質・能力)を子供たちに育むため、学習指導要領に基づいた授業づくりについて実践を通して主体的に学ぶ。
- ②教師同士のネットワークを構築し、講座での学びを吹田市内で広げるとともに、自校での OJT に生かすことにより、学習指導要領に基づいた授業づくりの文化を築く。

—講座の目標—

吹田市の全小中学校が学習指導要領に基づいた授業づくりに取り組む。

授業者の実践から学ぶ 授業づくりのポイント

大人と同型の文脈を描く

➡子どもたちが行う言語活動。子どもたちの経験や学びは将来どんなことに役に立つのか？大人と同型の文脈を描くことで、「生きて働く」知識・技能となり、学ぶ必然性が生まれてくる。

汎用性のあるスキル

➡自己調整や自律的考察は能力であり、子どもたちに経験させていくことが必要。こういった能力は国語以外でも育まれる。ではそれらを身に付けるために何を学ぶのか？教師が意識しておくことが大切。

授業者の提案

Why なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

【知識及び技能】

- (1)考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。(2)ア
- (2)漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。(1)ウ

【思考力・判断力・表現力】

- (1)「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。B(1)ウ
- (2)「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。B(1)イ

【学びに向かう力、人間性等】

- (1)進んで理由を吟味し、学習の見通しを持って、考えを文章にまとめるようとする態度を養う。

What 何を学ぶのか

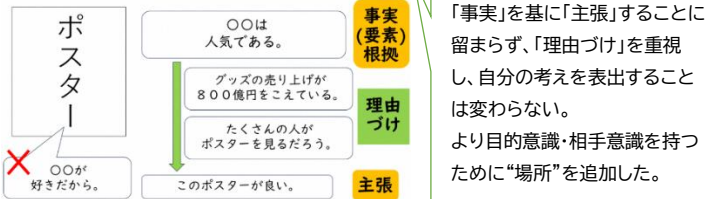
子供達の学習対象は？

【本単元で学ぶ見方・考え方】

自分の考えの理由を掘り下げ、吟味する。
書き表し方を工夫し、自分の意見を分かりやすく書く。

【本単元で学ぶ学習過程】

「博物館にどちらのポスターを貼るのか」という意見文を書く言語活動から、「博物館に来てもらうよう集客するために、どちらのポスターを“どこに”貼るのか」へと変更し、より児童が目的意識・相手意識を持って意見文を書いていく



「事実」を基に「主張」することによって留まらず、「理由づけ」を重視し、自分の考えを表出することは変わらない。
より目的意識・相手意識を持つために「場所」を追加した。

How どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

教材研究会を経て、実際に話を聞く(博物館の館長やポスター作成者)ことも加えて、より相手意識・目的意識を持った言語活動となるような単元構成に変更した。

時	学習活動	見方・考え方を働かせている子供の姿
1	学習課題の設定 初発の意見文	・ポスターについて自分なりの意見を持ち、意見文を書く① ・意見文交流
2	学習計画をたてる	・意見文を書く目的を確認する ・学習計画をたてる ・博物館の人に話をきき、質疑応答をする
3	博物館について調べる	・博物館のおすすめ展示、イベント、博物館の歴史など、博物館についての情報を集める
4	伝えたいことを明らかにする	・収集した情報から、自分の考えの根拠を支える情報を選ぶ ・意見文を書く② ・ループリリック作成
5	構成をとらえる 効果をとらえる	・博物館のポスター2枚の構成や要素・効果をとらえる ・ポスター作成者の思いをさく
6	(本時) 伝えたいことを明らかにする	・自分の意見を決め、その意見を支える理由を掘り下げて考える ・意見文を書く③ ・ループリリック確認
7	経緯を振り返る 貼る場所の検討	・博物館に行った経緯を振り返り、共有する ・ポスターを貼る場所を出し合い、それぞれの場所のよさを考える
8	構成を考え、まとめる 文章を書く	・意見文を書く④ ・自分の意見が伝わりやすい言葉の使い方、構成を考える ・筋道の通った文章になるよう考えをまとめる ・つなぎ言葉や表現を見直し、適宜修正をしながら書く
9	交流会	・発表を聞き合い、意見文を評価する ・意見が伝わりにくい点について、改善策を考える
1	推敲する 比較する	・意見をもとに、文章の構成、言葉の働きに着目しながら推敲する(意見文を書く⑤) ・初発の意見文と比べて、成長を実感する

【単元終了時の目指す子供の具体的な姿】

- 理由や根拠を明確にして、自分の意見を持つことができる子ども。
- 相手に伝わりやすいよう、工夫して文章を書くことができる子ども。

前回の研究会からの補足

博物館と相談の上、「博物館にたくさんの人が訪れてくれるようにしたい。そのために、どちらのポスターをどこに貼るのが良いか考えてほしい。」という依頼とした。

国語科としての単元は第10時「意見文を書く」ことで終わっているが、その後、総合の授業でグループごとに施設にポスター掲載の依頼に行く時間を取る(博物館の許可をいただいています)。

子どもたちから、全校朝会等で「博物館に行こう!」とよびかけたいという意見が出ている。校内へ依頼して、実現させたいと考えている。

子どもたちの書いた意見文とともに、AB 両家のポスターを博物館に掲示してもらう。折衷案が出た場合、ポスターを改訂して掲示してもらう可能性もある。

本時の目標				
・自分の考えと、その理由や事例との関係を理解する【(2)ア】 ・考えと理由や事例の関係が明確になるよう書き表し方を工夫する【B(1)ウ】				
働かせたい見方・考え方				
・自分の意見を決め、その意見を支える理由を掘り下げて考える ・博物館のポスターについて意見文を書く				
学習過程	構造と内容の把握を確認	情報の収集と考えの形成	情報の収集と考えの形成	考えの形成
子供の問い	・博物館ポスターの構成と要素を思い出そう	・A 案と B 案のどちらをどの施設にはると良いかな ・なぜそう思ったか考えよう	・読む人を納得させるにはどんな理由がよいかな	・読む人に理由が伝わるように、どんな工夫をしようかな
本時の学習活動(○)、内容	○ポスター要素の確認 ・前時で読み取ったポスターの構成と要素を確認する	○自分の意見を決め、理由を考える ・A 案と B 案の構成と要素を比べ、自分の意見を決める ・そう決めた理由や根拠を考える	○理由や根拠を明確にする ・相手意識を持ち、読み手が納得できる理由を考える ・ポスターだけでなく、博物館のHP、小学生(読み手)の好みなどを考慮しながら理由や根拠を考える	○意見文を書く ・読み手を説得するために、書き方を工夫する
見方・考え方	・ポスターの構成と要素が、見る人にどのような印象を与えているか、どのような働きをしているかを考える	・構成と要素を吟味し、自分の意見を決める	・情報と情報を結びつけながら、自分の意見をより強固なものにするための理由を考える	・読み手に理由や根拠が伝わるよう、接続詞や例えなどを効果的に用いて書き方を工夫する
指導上の留意点(●) 評価規準及び評価の方法(★)	●前時に分析を書き込んでいる、ポスターデータを確認させる	●「考えと理由のつながりに着目しよう」で学んだことを想起させる ●「B 案派だが、A 案のこの要素を B 案に入れたい」という意見が出れば、それも良いこととする	●児童が「インターネットで意見文調べたい」「いろいろなポスターを見てみたい」「どんな施設があるか調べたい」と希望したときは自由に調べさせる ●ミライシードなどでアンケートをとり、根拠とした児童がいれば、作成してもよいこととする ★自分の考えと、その理由や事例との関係を理解する【ワークシート評価(2)ア】	●アンケートを作成している児童がいれば、アンケート結果部分を空けた状態で意見文を作成させる ・考えと理由や事例の関係が明確になるよう書き表し方を工夫する【ワークシート評価 B(1)ウ】

講師
NPO 法人
エデュ・ネットワーク・プラン 代表理事

齊藤 一弥氏

横浜市公立学校教諭、横浜市教育委員会勤務、横浜市立小学校校長、島根県立大学教授を経て、現職。
現行学習指導要領の作成に関わるとともに、高知県において学力向上総括専門官、教育課程推進専門官として授業改革に取組み、成果を上げている。



Why

なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

How

どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

What

何を学ぶのか

子供達の学習対象は？



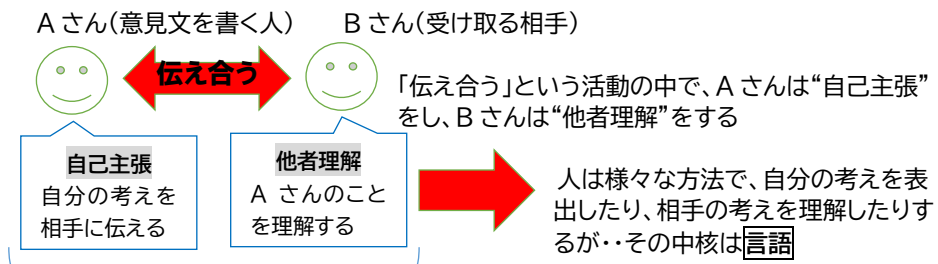
1 なぜ意見文を書くのか

○なぜ意見文を書くのか？なぜ国語を勉強するのか？

子どもたちは就学前から「言葉」を介して、友達とコミュニケーションをとっている。

→にも関わらず、子どもたちは国語を学ぶ…なぜ？

ここをはっきりさせておかないと、(否定されるものではないが)「意見文を書く指導をどうやったらいいか」という話になる。なぜ学ぶのか？これを考えていきたい。



豊かな人間関係が生まれる

自己主張…適確な表現が必要
他者理解…正確な理解が必要

自分が伝えたいことをより適確に表現するとともに、相手に伝えたいことがより正確に理解してもらえるということが重要

豊かな言語環境が生まれる

国語という教科が担っている役割は、人の生活する上での根幹的な部分というものを指導の中で育成している

○「伝え合う」に注目してみる…「人に伝わる」とはどういうこと？

《2つのポイント》

「何が」伝わるのか？ 情報 ・ 価値 ・ 意見、意志
「いかに」伝わるのか？ 分析的 ・ 創造的 ・ 批判的

情報は分析的に書き、価値は創造的に書き、意見は批判的に書く。
→「人に伝える」時には、伝え方の質があるということ、小学校中学年から高学年・中学校・高等学校とあがるに従って少しずつ言語活動をくり返しながらかんていく。そのスタートという認識を持っておくことが大切。

2 大人と同型の文脈を描く

○大人と同型の文脈を描く

小学校段階では、「素地的経験」をしているが、将来私たちの暮らしや仕事の中でこういった経験・営みはどんなことに役に立つのか？

→本時の活動は、大人になってからの営みで言うと、〈企画書〉を書いている。

(例)博物館の広報の人たちが、予算があまりないのでポスターを10枚ずつ印刷した。一番効果のあるところに貼ってこよう。
よって…何枚でも貼れるとなると、どこに貼ったって良いということになってしまう

内容の細かさ粗さ、簡単さや難しさの違いはあるが、子どもたちがやっている仕事は大人と同じような形にしていくなことが非常に大事

そして、この「文脈」というのが、今回の国語の授業で言うと言語活動

○なぜ大人と同型の文脈にするのか？ → 《言語活動の自走》を目指したい！
つまり、最後のゴールが明らかになることによって、子どもたちはゴールに向けてより質の高いプレゼンを描いていこうとする。

子どもたちは 言語活動というのは目的的活动である

「博物館への集客や周知のために、一番効果的な場所を考える」という企画を立てているよりよい企画へとしていきたい！つまり、改善していきたい！と考える。

○改善には4つのステージがある……【PDCA】
(ポスターを選定するという行動の改善をしたい)
P:人を呼ぶためにAとBの2つのポスターを掲示しよう
D:10枚ずつしか貼ることが出来ない
C:評価する。「どこに?」「これで大丈夫なのか?」

問題場面に直面することで、「他者を納得させるためには…」もう一度企画を試みよう」という「必然」が生まれる。そして、言語活動のスタートが生まれてくる

そうすると、〈目的〉を明確にして〈考えの形成〉をする。その中で、〈推敲〉し、〈共有・交流〉するというサイクルを回していくことになる。そのサイクルを回して…

A:ポスターを持って行動する

自走させる時に一番大事なことは、自分事にするということ

言語活動としては、枚数制限のあるポスターを貼る。どこに貼る?となった時に、ここに貼ってほしい!という企画書を作って行くというリアル感がほしい。

3 汎用性のあるスキルとしての自己調整と自立的考察

○〈形成〉〈交流・共有〉〈推敲〉の3者の関係を考える

形成…現行指導要領から強調されている。「考えの」形成、つまり主観を入れる。

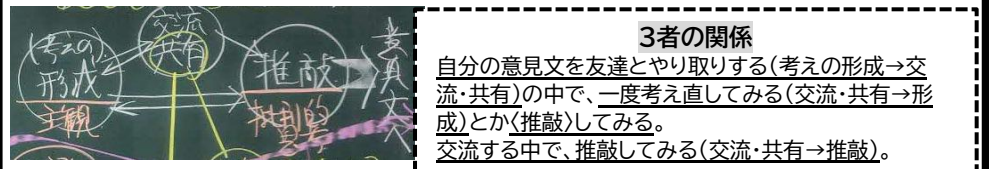
⇒今日の子どもたち「色鉛筆で描かれていて優しい感じがする」

「こっちは小さい子が興味をもってくれるのではないか」

これらは「主観」。つまり、人によって考え方が違う。

これを受けて、子どもたちは推敲する。つまり、「本当にOKがもらえるのか」と批判的に思考する。⇒「もうちょっとインパクトある方が良いかな」と考えていく。

これらの仕事は、1人でできるものなのかどうか…その時に、交流・共有という仕事がある



○共有の目的…何のために共有するのか？
共有することで、自己調整を図る。自律的に自らの文章を再確認する。
→低学年の子どもは一度書いたら「OK」だと思っている子が多い。
中学年くらいになると、比較という自分のと比べてみるという仕事が始まる。

メタ認知:客観的に捉える。客観視する。
「どこがどうだ」のように、比較する対象が分けられていれば、それぞれの視点ごとの比較が出来る
内発的動機づけ:自己内での動機づけが活発になる
学習を持続するモチベーションとなる

共有することで、メタ認知と内発的動機づけを学んでいる

自己調整で大切なことは他者との協働。援助を活かすということ。

自律的考察における「律」は、規範ということ。本時の「範」は?→ループリック
自律的考察というのは、範に基づいて自分が書いた意見文が本当にこれでいいのかと問い直すこと。

自己調整・自律的考察
これらは「汎用性のあるスキル」。つまり、国語だけの話ではない。一つの能力である。

受講者の感想
●子どもたちをどうやる気のルートに乗せていくかは、その文を書く「必然性」など、書く相手や設定をこちらがどう設定するかがとても大切である。
●授業づくりを考える上で、子どもの立場にたって考える大切さを改めて感じた。